父を偲ぶ会

中野和哉

母：　さ、仏壇に手を合わせなさい。
息子：　はい。母さん。（祈る）
母：　きっとお父さんも天国で喜んでいますよ。
息子：　そうですね。母さん。
母：　誠二ももう二十(はたち)、成人ですね。誠二が成人ですね。
息子：　笑うところですか。母さん。
母：　そうですよ。
息子：　気づきませんで、失礼しました。
母：　誠二にもそろそろ、お父さんのことを話しておかないとねえ。
母：　順番に話しますね。何、そんなに長い話じゃないですよ。
息子：　はい。母さん。
母：　聖徳太子が推古天皇の摂政になったころ。
息子：　長そうですね。
母：　私とお父さんは出会いました。
息子：　笑うところですか。母さん。
母：　そうですよ。
息子：　気づきませんで、失礼しました。
母：　でもその頃から私はお父さんを愛していました。
息子：　はっはっはっは。
母：　笑うところではありません。
息子：　気づきませんで、失礼しました。
母：　お父さんは大変な実業家で、大金持ちでした。
息子：　すばらしいではありませんか。
母：　私は金のためにお父さんと結婚しました。
息子：　…はっはっはっは。
母：　ふふふ。
息子：　成人して話すことといえば、遺産の・・・？
母：　…でもね、お父さんには悪い癖があって。
息子：　ギャンブル、ですか。
息子：　そんな。父さんはどんなギャンブルを。
母：　(涙声で)あの人は…！
　(声を詰まらせるが、一気に)ビンゴさえしなければいい人でした！
息子：　(愕然として無言)
母：　ビンゴに負けて帰って来た日は、手がつけられませんでした。
　泥酔し、暴れて…

息子：　そんなに悔しがるものではないでしょう。
母：　反面、勝った日は、景品を見せびらかせて、それはそれは楽しそうでした。
息子：　そんなに楽しがるものでもないでしょう。
母：　それだけビンゴに没頭していたのです。
母：　勝つためにビンゴ関係の本を買いあさり、ビンゴ必勝セミナーに欠かさず出席していました。
息子：　それで勝てるんですか。
母：　あるときは、中世ヨーロッパのビンゴ王、ドビンゴ・ビンゴ・ビンゴーニの伝記を、
息子：　そんな人物が！
母：　自分で書き、
息子：　空想か！
母：　ビンゴーニの子孫から感謝状を、
息子：　嘘から出た真か！
母：　もらうこともなく、
息子：　やはり空想か！
母：　晩年は食欲もなくなり、ビンゴカードばかり食べていました。
息子：　栄養は、ありません。
母：　お父さんの最後の言葉は、「備後地方」でした。
息子：　…住みたかったんですね。
母：　それが、お父さんの全てです。
息子：　ビンゴだけでしたね。
母：　これが、お父さんの最後のビンゴカードです。
息子：　ダブルリーチじゃないですか・・・！ 無念！
母：　あと、この 20 さえ出てくれれば。
息子：　20…はっ。だから私が成人になるのを待ったんですか。
母：　ビンゴ！

終劇